



正子とみんなで作る 県政報告 VOL.19

一生懸命だよ



「世界に飛翔け！長野県カーリングチーム」
オリンピック出場を祈念して 軽井沢にて（5月24日）

高校再編

白田高校・岩村田高校工業科と共に 北佐久農業高校に新たに「総合技術高校」を！

これからの学校、みんなで考え 声や意見を出そう

これは昨年「佐久市内の高校5校を4校に」を受けて県教育委員会が発足させた「佐久地域の中等教育を考える会（新津真澄会長はじめ該当5校プラス望月高校の校長、PTA会長、同窓会長、後半から中学校の校長代表と連合PTA会長、北佐久・小諸地区の高校長も参加）」の3月答申である。「5校を4校に」の中で、普通科でなく職業科を中心という県の方針もあったが、普通科も含め各学校の内容、方針を出し合い議論していた。

同時に企業と職業高校の校長代表で「長野県産業教育審議会」をつくり、そこで「総合技術高校」的な意見もあり、北佐久農業高校から農業・工業・食品も合わせ、環境に注目した「エコロジカルハイスクール案」も出される中、最終的には上記の決定に至った。職業科の統合が決定されつつある中で、全体会では普通科を存続したいとする白田高校と野沢南高校普通科の連携（統合）案も進んだが、これは該当校のみの話し合いという形の中で消えた経過もある。途中、中高一貫教育も視野に入れ、「東信第一の進学校に」と夢を語る岩村田高校、同様に中高一貫を唱える野沢北高校の両同窓会の意見もあった。

一方、発言を許可された佐久市PTA連合会や先生方の組合からは「伝統ある3校（北農の畜産科はかつて獣医師も輩出し、現在農業高校として三科一体で充実している。岩校の工業科は国公立の推薦や、資格取得も多く、クラブ活動も活発であり、卒業後は企業で活躍している。東信唯一の林業科系がある白田校は農業・家庭科系を併せ持ち、かつて看護科では地元で多くの看護師を輩出していた）を1校にするのではなく、それぞれの特色を活かし、連携することができるのではないか。高校を減らす議論のみでなく子供達一人ひとりが大切にされるよう、先進県のように一学級の定員を少なくしたり、中学生が行きたくなるようなクラブや中身の充実を議論したらどうか」との声もありました。

ただし
白田高校の
校地も活用！



白田高校



岩村田高校



北佐久農業高校

2月定例県議会のご報告



2月定例議会は村井知事の元秘書が自殺というショッキングな事件が直前に起こった重苦しい議会のスタートであった。誰もが及び腰の中、今井議員の質問の前の第一声は、まず同じ年広島出身の右近氏のご冥福を祈ってから「村井知事に捜査についての明確な答弁を求める」勇氣あるものでした。

3月19日、反論もむなしく、知事・議員報酬の増額を戻さないまま、公共施設の使用料、福祉・看護学校などの授業料をアップする条例が可決。浅川ダム(当初380億円)建設に向けての17億円を含む、約8,322億円の予算が可決され、今議会を終了しました。

財政 県予算の歳入歳出の精査について

Q. 県民所得が低下している中で税金の使われ方など、厳しい目が県政に寄せられている。特にブラジルへ職員を派遣するのに**一人当たり200万円**(4人で800万円)、「ザガット長野」の英語版促進事業935万円、国際コンベンション事業などで3,151万円などの支出根拠は？

A. ブラジル訪問は知事はじめ4名の渡航費。予算額は主に観光事業費として扱っており開催支援費用。

Q. ①県職員の超過勤務手当カット、②月1~2回前後の教育委員・人事委員・監査委員等の月額15万余円から28万余円の報酬、千人を超す特別委員の月額2万円前後の報酬を減額は？ ③外郭団体の人件費等の補助見直しは？

A. ①努力する。②削減したばかりなので直ちにはしない。③順次削減

県国際課には英語通訳者もいるのに。高齢者で年金のみで生活する人ら割強。その半数以上が年間200万円以下で生活しているのに。

福祉 認知症支援と成年後見人制度促進について

Q. 県の認知症患者の現状と支援は？ 成年後見人制度の促進政策は？ どう対応するのか！

A. 施設整備の促進や早期発見などに取り組んでいる。また認知症患者の財産保護など新たな課題もあり、本年各市町村と連携を強化した。

人間の尊厳を守るという視点を忘れないでね！

農政 農業政策について

Q. ①県内の遊休農地の現状と、再生、活用の方策は？ ②減反と水田の有効活用についてと米粉の取り組みは？ ③農業開発公社の現状と県債の投入状況。④国の農業政策(減反政策、自治体や農業者に大きな負担を残した、地方債に頼った事業)についての知事の所見は？。

A. 農業生産の向上や多面的機能の維持のためには、ある程度の地方債負担は当然だ。私たちは相当の期間恩恵を受けている。(知事は負担の中身については触れず。)

国の減反政策が荒廃地や遊休農地増加の一因に！？

行政 警察組織のあり方について

Q. 今回の警察組織の見直しでパブリックコメントは反映されているのか、管轄地域と市町村行政との不整合に対する配慮と考え方は？ 今後の決定までの流れは？

A. 懇話会では警察署・交番・駐在所の連携が不十分との意見を頂いた。今後は各市町村の交通安全協会、防犯協会などと連絡を密にしたい。なお市町村の行政区画を分断しないことを原則として警察署を配置していくべきとの意見を頂いている。

単なる行政区分だけでなく地域性など考慮する観点から関係する地域の人々の声も大切にしてほしい。

県教育委員会の決定した「野沢南高校(普通科・全日制・定時制)を多部制単位制高校(午前部・午後部・夜間部)に」との案は、同窓会・PTAなど学校や地域の声を受け、県議会でも賛成を得られず廃案となりました。そもそも少子化といえども、この広い佐久地域から効率優先で高校をなくすことなく、「どの子にも公立で中等教育の保障を」と願う今井議員。多部制の必要性があれば、頑張っている夜間定時制の一部に導入するならばともかく、全日制普通科を廃止して、単独に特別な一校をつくることには反対をしていた今井議員。「できるだけ生の声を」と、毎月の「定例教育委員会」や「検討委員会」「審議会」「懇話会」「考える会」等を傍聴してきた議員は、「教育委員会」のたびに熱心に傍聴席に座られる同窓会長のお姿に心を打たれたそうです。

活動報告



地域の母子を守りたい
(メーデーにて)



寸劇を通じて子供を見守る防犯の皆様(青沼小にて学校長も参加)



山谷地区吹き出しボランティアを語る木内氏(県政報告会にて)



山林・林業復活を語る飯島氏(百沢地区間伐モデル山林にて)



カムバックサーモン!子ども達とサケを放流(水辺の会会長として)

